

今日のキーワード 足元の「原油価格」の動向(グローバル)

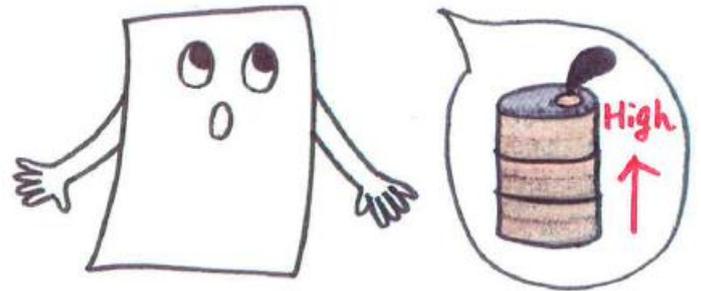
原油価格の代表的な指標に、ニューヨーク・マーカンタイル取引所に上場されているWTI原油先物(以下、WTI)があります。WTIは昨年半ば以降、世界経済に対する慎重な見方や石油輸出国機構(OPEC)の減産見送りなど、複数の要因が重なって大幅な下落が続いていました。3月以降は緩やかに持ち直しつつあります。

ポイント1 需給改善への期待 米国で生産減少の兆し

- 米エネルギー情報局(EIA)は毎週水曜日に前週末の米国の原油生産量を発表しています。それによれば3月20日時点で日量942万バレルに達した後、原油生産は伸び悩み、4月10日時点で日量938万バレルまで低下しています。
- またEIAは4月13日に、5月のシェールオイルの生産量は前月から減少するとの見通しを示しました。このような動きを受けた需給改善への期待が、原油相場を支えていると見られます。

ポイント2 緩和マネーへの期待 米早期利上げ観測が後退

- WTIは3月18日から持ち直し傾向にあります。この日は米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明やFOMCメンバーの経済見通しが公表されました。為替市場ではFOMCのハト派的な内容を受け、その後ドルの全面安が進行しました。
- これまで米早期利上げ観測を背景に、ドル高と原油安が進んでいましたが、FOMCを機に早期利上げ観測が後退し、緩和マネーが市場に滞留し続けるとの期待が、ドル安と原油持ち直しにつながったとも考えられます。



今後の展開 ドル安と原油の持ち直しが米国株の上昇につながるかに注目

■産油国の通貨と株価は上昇

ドル安と原油持ち直しの動きは、カナダ、ノルウェー、ロシアなど産油国の金融市場にも大きな影響を与えています。カナダドル、ノルウェークローネ、ロシアルーブルは、原油の持ち直しと歩調を合わせて、対ドルでの下落から上昇に転じています。また3カ国の主要株価指数も、そろって上昇ペースが加速しています。

■米国株はさえない動きが続く

一方、米国株は年初からさえない動きが続いています。株価の重しとなっているのは、①ドル高、②原油安、③低調な経済指標、④利上げ観測、これらに起因する企業業績悪化懸念です。そのためドル安と原油持ち直しが緩やかなペースで続いた場合、企業業績懸念の解消が見込まれ、米国株の上昇につながる事が期待されます。

ここもチェック! 2015年04月01日 米国の主要企業の業績見通し
2015年03月24日 「資源価格」と世界経済(グローバル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。